



T O K Y O R O P P O N G I R O T A R Y C L U B

東京六本木ロータリークラブ



『エンジョイロータリー』

～Enjoy Rotary～

東京六本木ロータリークラブ会長

W E E K L Y R E P O R T

『夢をかたちに』

～ Make Dreams Real～
国際ロータリークラブ会長

発行日 2009年6月1日

No. 39



平成21年5月11日

卓話 『あなたとあなたの愛する人を乳がんから守るために』

NPO法人 J.POSH (日本乳がんピンクリボン運動) 事務局長

松田 壽美子 様



こんにちは。今日はピンクリボン運動、マンモグラフィ検診についてダダダッと大阪弁でまくしたてさせていただきます。

乳がんは触って見つければいいんじゃないかという方もいらっしゃるんですが、実際にプロが触診で見つける最低の大きさは直径1cm程度です。1cmになるのに8年から10年かかるので決して早期ではないんですね。マンモグラフィ検診は0.5～1mmの超早期の乳がんを見つけることができます。乳がんになる方は年々増えて1年間に約42,000人になっています。日本の特徴の一つは40代、50代の若い方がなる。20代後半からの患者さんも増えています。とにかく二十歳過ぎたら乳がん年齢。もう一つ、世界では1990年を境に乳がんの死亡率は減っているのに日本だけが右肩上がり。2007年には11,323人亡くなっています。

なぜ日本だけ増えるのか。一つはマンモグラフィ検診が当たり前になっているかという問題。マンモグラフィ検診はおっぱいをのし餅のように薄く延ばすレントゲン写真です。ペチャパイは受けられへんとか言うけど、そんなことはございません。兎に角おっぱいに何かあったら専門医のいる病院で診断を受けていただく、これはイロハのイでございます。早期発見のメリットは手術が大変早くきれいにでき経済的な負担も少ないこと。早期に発見できなかった場合、全部取らないといけません。おっぱい無くなる方が命無くなるよりつらかったという方がたくさんいらっしゃる。副作用もでございます。精神的な負担も一生ついて回る。早期発見されればいいことづくめ

ですが病院に行くのが怖い。忙しいとか暑い寒い、いろんなことを理由に行かない。それとがんを隠す風潮がまだ日本にはございます。がんは家系だといって娘の縁談が決まるまでは隠しておきたいというような話が行われてます。



ピンクリボン運動はアメリカで80年代にスタートしました。J.POSHは2002年、おっさんとおばさん6人で始めたんですが、毎年自治体にマンモグラフィの機械、バスを寄贈させていただいて、昨年の高知県で5台になりました。今年からは医療機関に呼びかけて、10月の第3日曜日、全国161の医療機関でマンモグラフィ検診を受けられるジャパン・マンモグラフィ・サンデーを始めます。

もう1つ力を入れているのが家族と子供たちへのプログラム。患者さんも大変ですが家族も心に傷を負っています。それをサポートする仕組みがまだまだ日本にはございません。そういう子供たちと患者さんを何とか元気にしたいと今年は全国11か所でサポートプログラムを展開していますけれど、これらはJ.POSHだけで進めていく活動ではありません。今日ロータリーの皆さんと出会いがございました。まず検診を受ける、受けさす。そしてお仕事を通じていろんな形でサポートしていただけるようお願いいたします。ありがとうございました。